

令和6年度 第3回 学長選考・監察会議議事要録

日 時：令和6年7月25日（木）10：00～11：19
場 所：オンライン会議（Teams）
出 席 者：佐々木委員（議長）、飯塚委員、尾崎委員、沼田委員、原口委員（人文社会科学部長・人文社会科学野長）、勝二委員（教育学部長・教育学野長）、岡田委員（理学部長・基礎自然科学野長）、宮口委員（農学部長）
欠 席 者：大谷委員
監事監査規則第9条第2項による出席者：人見監事

議 題 審議事項

1 学長の業績評価について

議 事 概 要

I 議事要録の確認

議長から、令和6年度第2回の学長選考・監察会議議事要録について、事前に各委員に確認いただき、大学ホームページに公表済みである旨の報告があった。

II 審議事項

1 学長の業績評価について

議長から、令和6年度における学長の業績評価を行うため、本日、学長によるプレゼンテーション及び意見交換を行いたい旨発言があった。

次いで、事務局から資料1に基づき、プレゼンテーションの進め方と今後の評価書作成に係るスケジュールについて説明があり、各委員において、令和6年8月9日（金）までに評価書を作成の上、総務部総務課に提出することが確認された。

その後、学長によるプレゼンテーション及び質疑応答等が行われた。

【主な質疑応答】○委員 ●学長

○ 大学のマネジメントに関して、スチューデントサクセスセンターの設置による学生窓口の一元化はよい取組である一方、それに伴う事務組織の急激な再編により負担が生じており、これを恒常化させないための方針はあるか。

また、女性教員比率の向上に関し、努力はしているが、現場では様々な要因によりうまく進まない部分がある。取組を進めるために、インセンティブの仕組みを強化するなど、今後の方針をどのように考えているか。

● 毎年、基盤的な予算が削減される中で、発想を変えて、既存の業務をやめることを含めて、効率化を進めることが重要である。

また、女性教員比率に関しては、本学として社会との大きな差がある中で、スピード感をもって取組を進める必要があり、全学的な協力をいただきたい。

- 教育改革などの取組を積極的に進める中で、そういった取組を学外にアピールしていくことが重要であるが、こういった方針をもっているか。
- 地域社会や高校生へのアピールや訪問を拡げることに加え、文部科学省、茨城県、本県選出の国会議員等をこまめに訪問し、本学の取組についてご説明し、ご理解・ご協力いただけるよう努めている。

- 学修者本位の教育として、今年度から地域未来共創学環の設置やプラス I プログラムの導入などの取組が行われている中で、具体的な成果はこれからだと思うが、学生の反応など手応えはいかがか。
- 手応えを感じている。特に、地域未来共創学環の学生は、将来を見据えて目的意識をもって学んでおり、非常に前向きで積極的な学生を受け入れることができた。

- 研究者の獲得競争が厳しさを増している状況の中で、一部の若手研究者からは、本学における研究面での将来を不安視する声もあるが、そういった状況をどのように考えるか。
- カーボンリサイクルエネルギー研究センターにおける取組など、本学が推進する環境科学分野をはじめとする社会課題の解決に向けた実践的な研究について、その目的をしっかりと共有して、賛同する研究者を確保することが重要である。

- 事務組織の再編による人員配置の集約化は、業務を進める上でコミュニケーション不足が生じやすくなることも考えられる。一方で、新たな事業やサテライトなどの拠点の整備により、新たに人員の配置が必要になる状況も生じており、バランスが大事だと考えるが、今後の方針としてはどのようにお考えか。
- 基盤的な予算が削減される中で、一定の集約化は必要である。一方で、だからこそ外部資金獲得を強化し、そういった取組に人員等の資源を充てることも重要となることから、非常に悩ましい問題である。
全学的な課題として、ぜひ学部長の先生方にも一緒に考えていただきたい。

- 学生や地域への情報発信はされていると思うが、学生の保護者の方への情報発信については、どのような取組をされているか。
- 各学部で学生の保護者による後援会組織があり、そういった組織を通じて本学の取組などの情報発信は行ってきたが、これまで全学的な取組はあまりなかった。
現在、学生の保護者の方を含め、学生、卒業生、教職員、パートナー企業等、本学のあらゆるステークホルダーの方との連携に向け「茨城大学校友会（仮称）」の設立を準備しているところであり、今後、情報発信を強化していく。

2 その他

次の開催は令和 7 年 1 月を予定。